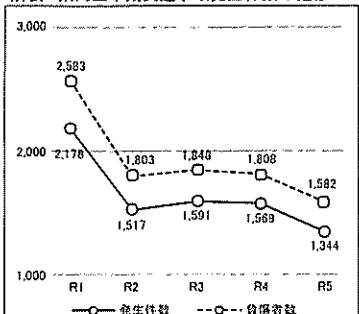


別表1 上半期県内の交通事故発生状況

	発生件数	死者数	負傷者数
本年	1,344	16	1,582
前年	1,569	9	1,809
増減	-225	7	-227
増減率	-14.3	77.8	-12.5
1日平均	7.4	—	8.7

別表2 塩内上半期交通事故発生件数の推移



死者数の推移	R1	R2	R3	R4	R5
	15	19	14	9	16
うち高齢者	10	12	8	7	7
(割合%)	66.7	63.2	57.1	77.8	43.8

山形県警察本部のまとめによると、県内の本年1月から6月までの交通事故発生状況は、別表1のとおり、発生件数が1,344件で前年同期比2.25%（13.3%）の減、負傷者数が1,582人で同22.7人（12.5%）の減、死者数は16人で同7人（77.8%）の増となっています。

死者数16人のうち、65歳以上の高齢者は7人（昨年と同数）、全体に占める割合は43.8%と依然として高く、約半数を占める状況が続いています。

県内の過去5年間の発生状況は別表2のとおり

県内上半期交通事故発生状況
→死者数16人、前年比7人の増加(

県警察本部

件の交通死亡事故が発生
(7月27日現在)。うち5
件は高齢者が関係する交
通死亡事故のため「高齢

県形山自家用自動車

定価1部・20円
の購読料は会員に含まれております
発行所
形市大字漆山字行段1422
一般社団法人
形県自家用自動車協会
番023（686）3951
[ps://www.y-jikayo.or.jp](http://www.y-jikayo.or.jp)
印刷／駒歩林印刷所

ことの見落とし事故を防止・
～新たな国連基準を導入～

炎天下の車の温度、
車内に子どもや高齢者を残さない、

警察局のまとめによる
と、本年上半期の全国の交
通事故死者数は1,182人
で、前年同期比24人
(2.1%)の増加となつて
います。都道府県別で最
も多かつたのが大阪府の
81人、次いで愛知県の72人
神奈川県の58人となり、
最も少なかつたのは佐賀
県の3人となつています。

国際的な安全基準が日本主導のもと国連自動車基準調和世界フォーラムにおいて成立し、この新国連基準が国内で導入されることになりました。

今後、国土交通省では、自動車の安全・環境基準等について、社会や技術の変化を踏まえながら、国

から見えづらく見落とされ
るリスクが高まります。
このような見落としによ
る事故を防止するための

主な改正項目

- 1 乗用車等には、運転者席から死角となる車両の直前及び側面にいることでもなどの歩行者を確認できるよう鏡やカメラモニタ等の視認装置又はゾナー等の検知装置を備えなければならないこととす

交付・施行

公布：令和5年(2023年)6月5日
施行：令和5年(2023年)6月5日(一部例外あり)

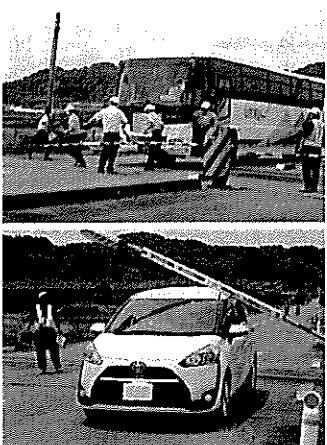
転者席を譲譲しなければならないこととする。

て、運転者席から直接視認できる近傍の視界の量(体積)を一定以上確保できるよう運

事故を防止! を導入する。

JAFは、高溫になつた車内を最も早く下げるデ
ストも行っており、その結果、車の窓を全開にして工
度と比べてわずかながら
窓をそれぞれ3cm程度開けた状態では、30分後の車
内温度が40°C、15時では
45°Cの結果となりました。
窓を3cm程度開けた状
態では、締め切った車内温
度と比べてわずかながら
低下の傾向がみられまし
け15時に45°Cを超
えていました。また、車の
窓をそれぞれ3cm程度開
けた状態では、30分後の車
内温度の上昇により破裂
や引火の可能性が高くなる
ため、車内に放置するの
は止めましょう。

用不能となり、市販の100円ライターは、2~3時間でケースに亀裂が生じ、ガスが抜け出る結果となる。その後も上昇を続



訓練を実施

正訓練を実施

山形県バス協会

の操作、乗客の避難誘導、
発煙筒で列車に事故を知
らせるなどの訓練を行い、
踏切内立往生時の対応手
順を確認しました。その
ほか、普通車の踏切内と
が17回目となるが、より
実践的な訓練を繰り返し
行うことにより、いざと
いうとき落ち着いた対応
ができるとしています。

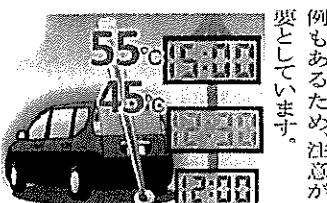
りこ状態からの脱出訓練
も行われました。

バス協会は、訓練は今回

数が危険レベルにまで達しました。このため、こうした状況下で子どもや齢者を車内に留めることは大変危険な行為となります。

そのほか、直射日光が当たるダッシュボード上にスマートフォンやライター等の日用品を置いて、状態

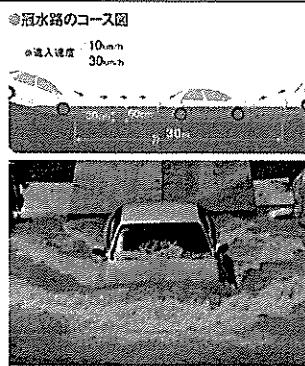
身体にとって厳しい状況であることは変わりなく、脱水症状や熱中症を招く恐れがあります。また、エアコンで適温が保たれている車内でも、エンジン停止後5分経過時には約5°C車内温度が上昇し、15分後には熱中症指



冠水路での自動車走行テスト

JAF

JAF(一般社団法人日本自動車連盟)は、アンダーパスが冠水した場合を想定し、車がどのくらいの浸水深(水面から地面までの深さ)で走行できるかを検証し公表しています。検証は、セダンタイプ



水深60cmの時速10kmのテスト

この雨、やばくない? 迫る災害を「キキクル」で確認!

気象庁

「キキクル」は大雨や洪水による災害の危険がどこでどのレベルで迫っているかを、地図上で視覚的に知ることができる情報で、気象庁のホームページで公開しています。

「キキクル」は災害発生情報を収集するなど大雨による災害が発表されるなど大雨による災害が発生するおそれのあるときや、急に激しい雨が降ったときはこのページにアクセスし、最新情報を入手しましょう。

可能性が極めて高い状況となるため、高齢の方はレベル3の警戒(赤が出た時点ですべて一般の方も遅くともレベル4の危険)が出了たとあるが、一般的な危険度を把握する場所へ速やかに避難することが重要としています。

また、「キキクル」を活用し、大雨による災害の危険性を把握するための外部給電機能や給電時の注意点などをまとめたマニュアルを作成しホームページで公表しています。

国土交通省は、経済産業省と連携して電動車保有者や電動車の活用を検討している自治体の参考となるよう、非常時に電動車を移動式電源として活用することにより避難所等での給電が可能となります。

交省は、同マニュアルの周知を図り、災害時における電動車の給電機能の活用を促進したいとしています。

山形県の6月における新車新規登録・届出台数は、総合計4,343台で前年同月比17.9%増となりました。

○登録自動車は合計で30台の増となり、乗用車は30台の増となりました。

6月の県内新車新規登録・届出台数は、合計で3,683台で前年同月比17.9%増となりました。

注1) 乗用車・普通車は3ナンバー、乗用・小型車は5ナンバー、貨物車は1又は4ナンバー、その他はバス、特種用途車等である。

2) 軽自動車については、軽自動車検査協会調べの速報値

のまま立ち往生という結果に繋がりかねないとしている。

JAFは、実際の冠水道路は見た目だけでは水深を測ることができないため、進入してから思いのほか深いことに気づき危険を察知する頃には車が浮いて動かなくなり、エンジンの吸気口が水を吸つたり排気管が水没で塞がれてエンジンが停止してしまった際に立往生という結果に繋がりかねないとしています。

沿いの他、高架下やアンダーパスなど周囲より低い場所には絶対進入せず、迂回することが大切としています。

山形県は、平成20年度に栃木県鹿沼市で発生したアンダーパスにおける車両水没による死亡事故を受け、警察、消防、各道路管理者が連携し、危険箇所の把握と次のような統一した対策を行っています。

6月の県内新車新規登録・届出台数は、合計で3,683台で前年同月比17.9%増となりました。

別表 県内の車両保有台数の推移(各年3月末時点)

	2019	2020	2021	2022	2023
貨物	62,134	61,742	61,418	61,070	60,993
乗合	2,559	2,522	2,439	2,373	2,286
乗用	411,020	408,928	407,576	404,957	402,897
特種(珠)	21,326	21,343	21,468	21,579	21,676
計	497,039	494,535	492,901	489,979	487,852
軽自動車	424,568	411,050	411,560	411,167	412,970
小型二輪車	13,608	13,880	14,216	14,510	14,962
総合計	935,215	919,465	918,677	915,856	915,784

注) 軽自動車については全国軽自動車協会連合会調べ

県内の車両保有台数が増加!

令和4年度末総合計9,115,784台

東北運輸局

増加に転じました。貨物、乗合、乗用は5年連続の減少に対し、軽自動車は2年ぶりに増加となりました。

山形県

山形県は、平成20年度に栃木県鹿沼市で発生したアンダーパスにおける車両水没による死亡事故を受け、警察、消防、各道路管理者が連携し、危険箇所の把握と次のような統一した対策を行っています。

山形県は、同マニュアルの周知を図り、災害時における電動車の給電機能の活用を促進したいとしています。

山形県の6月における新車新規登録・届出台数は、合計で3,683台で前年同月比17.9%増となりました。

別表 県内の車両保有台数の推移(各年3月末時点)

	2019	2020	2021	2022	2023
貨物	62,134	61,742	61,418	61,070	60,993
乗合	2,559	2,522	2,439	2,373	2,286
乗用	411,020	408,928	407,576	404,957	402,897
特種(珠)	21,326	21,343	21,468	21,579	21,676
計	497,039	494,535	492,901	489,979	487,852
軽自動車	424,568	411,050	411,560	411,167	412,970
小型二輪車	13,608	13,880	14,216	14,510	14,962
総合計	935,215	919,465	918,677	915,856	915,784

別表 6月新車新規登録・届出台数

	5年6月	前年同月	増減	率
乗用	1,297	854	443	51.9
小型	893	816	77	9.4
計	2,190	1,670	520	31.1
貨物	298	244	54	22.1
その他	74	56	18	32.1
計	2,562	1,970	592	30.1
軽自動車	1,699	1,660	39	2.3
小型二輪車	82	53	29	54.7
総合計	4,343	3,683	660	17.9

6月の県内新車新規登録・届出台数は、合計で3,683台で前年同月比17.9%増となりました。

○登録自動車は合計で30台の増となり、乗用車は30台の増となりました。

別表 県内の車両保有台数の推移(各年3月末時点)

	2019	2020	2021	2022	2023
貨物	62,134	61,742	61,418	61,070	60,993
乗合	2,559	2,522	2,439	2,373	2,286
乗用	411,020	408,928	407,576	404,957	402,897
特種(珠)	21,326	21,343	21,468	21,579	21,676
計	497,039	494,535	492,901	489,979	487,852
軽自動車	424,568	411,050	411,560	411,167	412,970
小型二輪車	13,608	13,880	14,216	14,510	14,962
総合計	935,215	919,465	918,677	915,856	915,784

注) 軽自動車については全国軽自動車協会連合会調べ